

進学、就職 新聞役立てて

八戸・光星高3年対象

本紙が出前授業



八戸市の八戸学院光星高校（中村良寛校長）は7日、東奥日報を活用した出前授業を同校で開いた。受講し

た3年生46人は、本紙朝刊を教材に入試や就職試験、面接に生かせる新聞の読み方を学んだ。

紙面づくりのルールを意識しながら本紙に目を通した八戸学院光星高校の生徒。7日、八戸市の同校

うな記事が掲載されているか―などを説明。「新聞には一つの意見だけではなく反対意見も載っている。新聞を読んで考え、自分なりの意見を持つことが大切」とアドバイスした。

授業を受けた村本友花さん（17）は「これまで新聞を読むことは少なかったが、これからは機会があれば読んでいきたい。読む力がつくと思った」と話した。

また、授業を担当した赤間俊勝教頭（47）は「生徒たちが授業を通して世の中の動きを知り、就職、進学に向けて小論文や面接に役立ててほしい」と効果を期待した。（三浦博史）

講師を務めた。

鎌田部長は「新聞のルール、読み方」と題し、記事配置の意味や各面にどのよ

授業は3年生を対象にした選択「時事探究」の中でこの日から4回実施する。新聞を活用して社会の動きを知り、進学や就職活動に生かすのが狙い。初回は東奥日報社販売局の鎌田浩伸NIE・NIB推進部長が